

カタカナのセカンドライフは日本人が作った和製英語で

**「老後」や「定年退職後の第二の人生」**

を意味する

日

本

英語のLife=ライフは人生を意味し一回きり

英語の **Seconnd Life**は  
**死後の世界**を意味する

欧米の英語圏

# セカンドライフに要注意！

英語Second Lifeの意味と違う和製カタカナ  
セカンドライフ

私の友人で、年金コンサルタントを職業にしているA氏がいます。大手の新聞社で年金の相談を受けたり、企業の要請で年金の講義をしたり全国を飛び回り精力的に活動している人です。

当初は年金について相談を受けていたんですが、徐々に年金だけでなく老後の生き方、利殖、など相談の範囲が広がり、友人のすすめもあり、年金コンサルタントからセカンドライフコンサルタントに名刺を変更しました。その名刺を日本国内で使用していました。

A氏はクラシック音楽が趣味で、毎年、ドイツのバイロイトで行われる音楽祭に夫婦で参加するのが楽しみでした。

毎年、世界から集まる友人に会え、旧交を温められるのです。年金コンサルタントからセカンドライフコンサルタントという名に変えた名刺の英語版を作って、古くからの友人、英国人、ドイツ人、米国人たちに自分の名刺を渡しましたが、皆さま、にやにやして、この名刺、ジョーク？というのでした。A氏はその意味が分かりませんでした。

A氏は年金コンサルタントからセカンドライフコンサルタントに名刺を変更した経緯を話すと、欧米、英語圏の人々の回答は以下のようなものでした。

英語のLifeは現生、一回きり。セカンドライフ=Seconnd Lifeは死後の世界を意味する・・と言われたそうです。そこでA氏は分かったのです。日本人が使っているセカンドライフ=老後、第二の人生というのは日本人が勝手に作った和製の言葉でこれらの言葉は英語圏で使うと「死後の世界」になると・・・。

セカンドライフコンサルタントは欧米英語圏の人たちには「死後・霊界のコンサルタント」になってしまう。死後をコンサル・・・は正にジョークです。それで、友人の人たちはジョークでこの名刺を作ったと思ったのです。

A氏は英語も良く話し、外人の音楽仲間も多くいましたが、英語圏のライフ=Lifeは一回きり、という概念がないために和製英語の名刺を作り、失敗したのです。

A氏はホテルに帰り、持参した名刺をすべてゴミ箱に捨てたそうです。セカンドライフの言葉は日本人間で使うには良いですが、外人さんと話すときは、全く別の意味になる、通じない・・と分かったそうです。

失敗して、学んだのです。